

木曾ヒノキ備林（旧出ノ小路神宮備林）案内の取り組みについて

東濃森林管理署 業務第一課 森林ふれあい係長 すずき ともはる 鈴木 智晴

はじめに

東濃森林管理署が管理している加子母裏木曾^{かしも くらきそ}国有林の一部は天然林で、かつては出ノ小路^{いで こうじ}神宮^{びりん}備林として取り扱われていました。

昭和22年の林政統一によりその取り扱いが廃止され、現在は一部を「木曾ヒノキ備林」に名称を変え、天然生である木曾ヒノキなどを供給する森林として維持管理しています。

また、この「木曾ヒノキ備林」からは、「伊勢神宮^{しきねんせんぐう}式年遷宮」の御用材をはじめ、我が国を代表する文化財的な建造物への木材供給が古くから行われていることなどから、様々な方が訪れています。

東濃森林管理署管内の特色のひとつでもある「木曾ヒノキ備林」を訪問される方々に対して、どのような取り組みをしてきたか、また今後どのような取り組みが必要かを考察しました。

1 木曾ヒノキ備林の位置

東濃森林管理署は、岐阜県南東部を管理しており、長野県との県境に位置する加子母裏木曾国有林の内、81～96林班を「木曾ヒノキ備林」としています。（図1）（写真1）



図1 木曾ヒノキ備林の位置図



写真1 木曾ヒノキ備林

2 木曾ヒノキ備林の概要

面積は約730ha、標高は820～1,820m、施業群は「木曾ヒノキ択伐」で、施業方法は「育成複層林施業」で行っています。

平成10年の標準地調査によりますと蓄積は約32万m³、樹種別の蓄積割合は、ヒノキが76%、サワラが23%、その他が1%です。樹齢は約300～400年、胸高

表1 木曾ヒノキ備林の概要

面積	約730ha
標高	820～1,820m
施業群	木曾ヒノキ択伐
施業方法	育成複層林施業
蓄積	約32万m ³
樹齢	300～400年
胸高直径	50～80cm
平均樹高	25m

蓄積割合

サワラ 23%
ヒノキ 76%
その他 1%

平成10年の標準地調査による

直径は50～80cm、平均樹高は25mとなっています。(表1)

3 裏木曾地域における森林利用と保護の歴史

この裏木曾地域（岐阜県南東部の地域で、東濃地域東部の通称）からは、室町時代に出材した記録があります。

江戸時代に入り、1610年頃から城郭再建のため大量の木材が伐採されました。

1624年から、尾張藩の禁伐統制により「すやま巢山」「とめやま留山」「さややま鞆山」が次々と設定され、1708年、「ちようじぼく停止木」にヒノキ・サワラ・アスナロ・コウヤマキの針葉樹を指定し、1729年にはネズコも「停止木」に指定され、先の4種と併せ「木曾五木」と言われるようになりました。

現在の木曾ヒノキ林が成立したのは、平均樹齢から考えて、江戸時代の森林保護政策が大きな要因と考えられています。

昭和以降、姫路城「昭和の大修理」のほか、歴史的木造建造物の修復などに木材を供給しています。(表2)

表2 裏木曾地域における森林利用と保護の歴史
(年は諸説あります)

室町時代	1380年	外宮の遷宮材が「美濃山」より出材
	1448年	京都 南禅寺大火の復興用材台帳に「みのの国 つけち山 いでのこうち山」と記載
江戸時代	1610年	名古屋城など各地の城郭再建のために大量伐採
	1615年	裏木曾3箇村(加子母・付知・川上)尾張藩領 飛地
	1624年	尾張藩による禁伐統制の開始
	1653年	<small>すやま</small> 巢山(鷹が巢を設けた山で村人の利用禁止)の設定
	1666年	<small>とめやま</small> 留山(針葉樹の優良美林の伐採を禁止)の設定
	1708年	<small>ちようじぼく</small> 停止木(一切の伐採を禁じる)にヒノキ・サワラ・アスナロ・コウヤマキを指定
	1710年	<small>さややま</small> 鞆山(巢山・留山周りの立入禁止区域)の設定
	1729年	停止木にネズコを指定(併せて「木曾五木」という)
昭和以降	姫路城昭和の大修理のほか歴史的木造建造物の修復などに供給	

4 出ノ小路神宮備林の変遷

神宮備林とは伊勢神宮の式年遷宮に必要な用材を供給するために設けられたものです。

明治に入り、尾張藩領だった山は「官林」に、そして明治22年、裏木曾の一带は「御料林」となりました。

「造営材備林制度(以後百年間の御用材確保を目標)」により、明治39年から大正4年にかけて、御料林内に神宮備林を設定することになり、裏木曾の井出ノ小路山一带は大正2年「いで出ノ小路神宮備林」に設定されました。

昭和22年の林政統一により御料林は国有林となり、そのため特定の宗教に対する国の保護措置を廃止することから神宮備林制度はなくなり「特殊択伐用材林」となりました。

その後「木曾ヒノキ大材保存林」を経て、昭和52年に「木曾ヒノキ備林」と改称(以下「備林」という)され現在に至っています。(表3)

表3 出ノ小路神宮備林の変遷

明治 2 年(1869)	版籍奉還
明治 5 年(1872)	裏木曾(加子母・付知・川上)を「官林」へ編入
明治 22 年(1888)	「御料林」の設定(皇室林野局)
明治 37 年(1904)	御料林内に神宮備林を設定する「造営材備林制度」
大正 2 年(1913)	「 <small>いで</small> 出ノ小路神宮備林(臨時備林)」に設定
昭和 8 年(1933)	神宮備林の改編(第一備林)
昭和 22 年(1947)	林政統一により「国有林」「特殊択伐用材林」となる
昭和 42 年(1967)	「木曾ヒノキ大材保存林」へ改称
昭和 52 年(1977)	「木曾ヒノキ備林」へ改称(現在に至る)

5 案内ポイント

このように変遷してきた「備林」へは以前から多くの方が訪問されています。

そのために案内するポイント（図2）を設定するとともに、案内マニュアルを作って説明してきました。



図2 案内ポイント

ポイント① 「美林橋周辺」

備林の中心部であり、案内看板の前で、備林の概要・歴史について説明をしています。（写真2）

また、橋を渡った対岸にヒノキを主体に一部サワラが混生している「林木遺伝資源保存林」が設定されており、林道脇にはヒノキとサワラの幼木が混生しているため、葉を比べてその違いを説明しています。（写真3）



写真2 備林概略の説明



写真3 林木遺伝資源保存林での案内

ポイント② 「第62回神宮式年遷宮 裏木曾御用材伐採式跡」

平成17年6月5日に「御樋代（御神体を納めるための器）^{みひしろ}」の用材を伐採する神事が行われた箇所^{ないくう}で、内宮用と外宮用の2本の「御神木」を選木（写真4）し、斧を用いた「三ッ緒伐り^{みおぎ}」という手法で伐採した根株（写真5）があります。

その選木条件や、伐倒方法について説明をしています。



写真4 伐採式の様子



写真5 三ッ緒伐りの根株

ポイント③ 「各斧入れ式跡」

平成9年10月13日に行われた第62回神宮式年遷宮 斧入れ式（事始めの儀式）跡で、三ッ緒伐りで伐採されました。

残された根株は、このように屋根や看板を設けて保存しています。（写真6）

また、この場所のすぐ下には平成18年8月24日に行われた名古屋城本丸御殿復元のための御用材を三ッ緒伐

りで伐採した跡もあります。（写真7）



写真6 神宮式年遷宮斧入れ式跡



写真7 名古屋城本丸御殿御用材斧入れ式跡

ポイント④ 「二代目大ヒノキ」

備林から少し外れますが林道から約1kmのところ、推定樹齢1000年、胸高直径154cm、樹高26mの「二代目大ヒノキ」（写真8）があります。

二代目があるということは初代は何処にとまります。

「初代大ヒノキ」（写真9）はこの対岸にありましたが、昭和9年の室戸台風で倒れてしまいました。樹齢950年、胸高直径213cm、樹高36mもありました。

この二代目大ヒノキへ行くには歩道を往復約1時間歩いていただきます。

森林鉄道の跡で起伏も少なく、途中にはヒノキやサワラだけでなく、トチノキ・ホオノキ・キハダなどの広葉樹も自生していること、根上がり木、切り株更新など見所が多く、天然林の中を森林浴をしながら散策していただけます。(写真10)



写真8 二代目大ヒノキ



写真9 初代大ヒノキ

なお、この歩道については、春先の凍み崩れや台風などによる落石崩土、枯れ枝の処理や古くなった施設の整備を、多様な活動の森として協定している「NPOつけち」の方や地域貢献のボランティアの方々におこなっていただいております。(写真11)



写真10 二代目大ヒノキへの歩道



写真11 ボランティアによる歩道整備

ポイント⑤ 「ヒノキ・サワラ合体木」

この合体木は、推定樹齢560年、樹高35m、幹周り250cmで根上がり木になっています。

ヒノキとサワラが上下一本に融合して成長したもので、地上から約2mの所まで、正面がサワラ、裏側の一部がヒノキになっており、それより上は全てヒノキになっています。(写真12)

合体木は隣同士の木が融合してなるもののが一般的ですが、この木のように上下に融合し



写真12 ヒノキ・サワラ合体木

たものは珍しいとされています。

なお、これらを案内するのに、東濃森林管理署からの移動を含めて4~5時間を要しています。

6 木曽ヒノキ備林への入林について

「備林」は事業地でもあり、安全・防犯等の理由から専用林道の途中にゲートを3箇所（内施設2箇所）設置して、一般には開放していません。

入林される場合は、「職員の派遣依頼」か「入林許可申請書」、「入林届」のいずれかを提出していただき、「職員」または「備林に精通した地元の方」が案内人として同行しています。

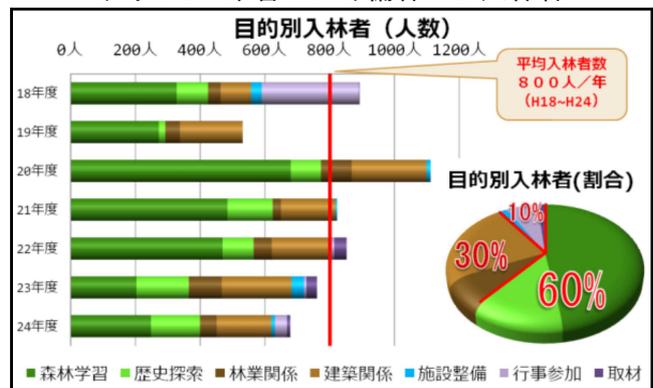
このため、案内は学習・研修目的の団体に限らせていただき、個人の場合はお断りをしています。

このように入林するには制限をしていますが、それでも入林希望が多いことから、資料が残っている過去7年間について入林者数とその目的を分析したところ、入林者数の年間平均は約800人でした。年齢層は小学生から中年まで幅広く訪れていました。

目的別に見ますと、地元団体や学校主催の森林学習・歴史探索が約60%、林業・建築関係者主催の訪問が約30%、伐採式等の行事参加、施設整備などが約10%となっています。（グラフ1）

備林の森林や、木材に関心を持つ様々な方が訪れていることがわかりました。

グラフ1 木曽ヒノキ備林への入林者



7 案内の内容

当署ではこれまで訪れる方々に対し、パンフレットを作成し配布してきました。



パンフレット 木曽ヒノキ備林（裏・表）

パンフレット 木曽ヒノキ備林（見開き）

案内の内容は、「備林の概要・歴史・成り立ち」「各伐採式」「三ッ緒伐り」「巨木（二代目・初代大ヒノキ、合体木）」「木曾五木やその他自生している植物」などです。

これらについてはそれぞれのポイントで説明をしていますが、相手になかなか伝わらないことが多くあり、苦慮していました。

例えば、木曾ヒノキ林がどういう経緯で成林したのか、御用材伐採式跡では、伐採当時や三ッ緒伐りの様子など、言葉では実感していただけないことに戸惑いを感じていました。

そこで、よりわかりやすく説明することができないか、訪れた方々からの感想や意見を基に、聞き手側の立場になって考え取り組んできました。

備林のパンフレットや口頭説明を補足するための資料として、木曾ヒノキ林の成立過程を図で説明したパンフレット（これは局のHPを基に作成）を作成し配布、三ッ緒伐りの作業手順は、その過程について写真を用いて作成してあったものをラミネートにしてご覧いただきました。

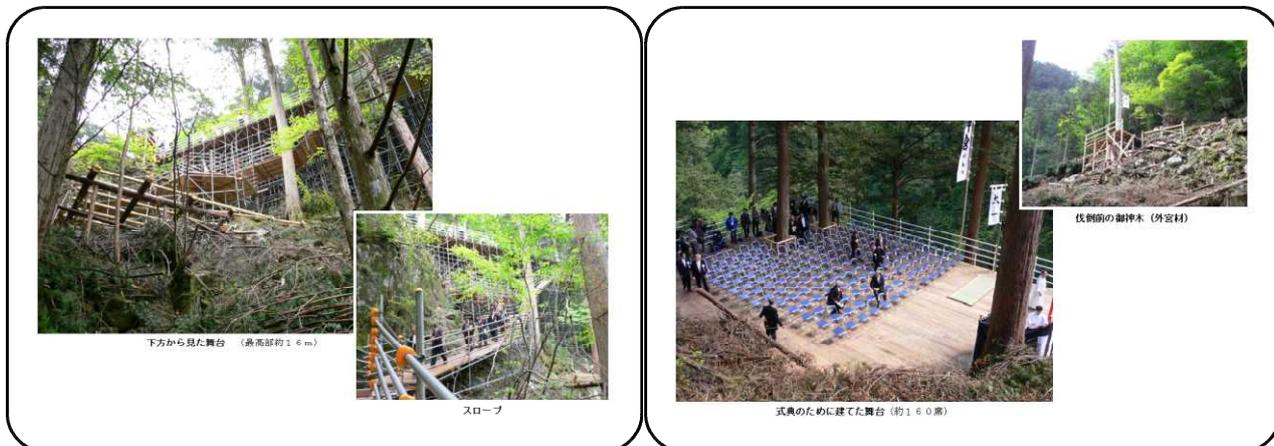


パンフレット
木曾ヒノキ林の成立過程

パンフレット
三ッ緒伐りの作業手順

また、御用材伐採式の写真をラミネートにした物で、当時の様子もご覧いただきました。

中にはラミネートにした物を写真に撮っていく方もおられ、「聞くと見るでは違い、伐採式の様子がわかってよかったです。」などと好評を得ています。（写真13）



高さ16mのやぐらの様子

式典の舞台と御神木（外宮用）



御用材を伐倒した時の様子（2本が「人」の字のように先端が重なっています）

2本の御用材が伐倒されたときの状態



伐倒（6人1組で3人で3つに分けて倒しました）

伐倒に使用した斧（代々受け継がれているものもある）

伐倒（三ッ緒伐り）の様子



写真13 ラミネートを使用した説明



パンフレット 木曽の五木

木曽五木についてもパンフレットで紹介していますが、「付近にない樹種もあること」、「大木の葉は手に届かないこと」、「稚樹の葉を傷めないようにすること」から、葉の実物をラミネートにしてご覧いただきました。



ラミネート ネズコとアスナロの葉（表）



ラミネート サワラとヒノキの葉（裏）

ヒノキとサワラは、葉裏の気孔で見分けることができることから、表と裏の両面から比較でき、「木の葉はみな同じように見えていましたが、実物を見て特徴がよくわかりました。」などの感想が寄せられました。

8 訪問者からの要望

このような取り組みをしてきましたが、まだいくつかの要望がありましたので、その中から今後どのように取り組んでいくか整理しました。

要望①「木曽ヒノキと人工林ヒノキの年輪の違いや製材品を比較して見てみたいです。」

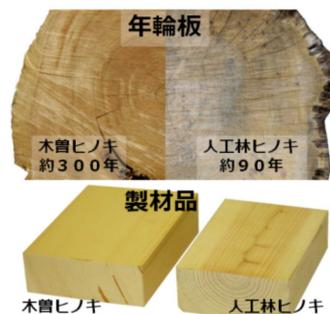
木曽ヒノキと人工林ヒノキの材を実際に比較して見た方が少なく、その違いを見てみたいという話が多く聞かれました。

比較用の年輪板および製材品を作成して展示し、実際に観察していただけるようにしたいと思います。

要望①に対する今後の取り組み

①木曽ヒノキと人工林ヒノキの年輪の違いや製材品を比較して見てみたい。

比較用の年輪板、製材品を製作・展示する。



要望②「ヒノキのほかにいろいろな樹木があるので名札をつけてもらいたいです。」

現在も樹名板は設置してありますが、数が少ないことや、汚れて見にくくなっています。

新たな設置や付け替えをおこない、樹名を覚えていただける機会を増やしていきようにしたいと思います。

要望②に対する今後の取り組み

②ヒノキのほかにいろいろな樹木があるので名札をつけてもらいたい。

新たな樹名板の設置や既存の樹名板を付け替える。



要望③「二代目大ヒノキの周辺立木の直径はどれくらいですか。」

二代目大ヒノキと、その周辺樹木との大きさの違いは見ればわかります。しかし、周辺の樹木に直径の表示がないためどれくらいですかとよく聞かれます。

主な周辺樹木に胸高直径を表示することで、二代目大ヒノキと300~400年生の樹木を数字でも比較してもらえるようにしたいと思います。

要望③に対する今後の取り組み

③二代目大ヒノキの周辺樹木の直径はどれくらいですか。

二代目大ヒノキとの比較のために、周辺樹木に直径を表示する。



要望④「歩道（木道が滑りやすい・階段が急）の整備をしてほしいです。」

急な歩道は階段を設置していますが、勾配が急な箇所や、木道が一部滑りやすい箇所もあり、子供や年配者の方が歩きづらいので改善してもらいたいとのご意見がありました。

急な階段や歩道は付け替えも検討しながら、その補修、整備は協定相手方やボランティアの方々を含めて行い、改善していくようにします。

要望④に対する今後の取り組み

④歩道（階段が急・木道が滑りやすい）の整備をしてほしい。



急な階段や歩道は付け替えも検討しながら、その補修・整備する。



要望⑤「人工林と木曽ヒノキ備林を比較して見学したいです。」

人工林の林相をご覧になったことがない方が、天然林の備林に入ってしまうとその違いがわかりません。

訪問者によっては、人工林と備林との林相の違いが比較できるように、行程を見直し、案内の仕方を工夫していきたいと思えます。

要望⑤に対する今後の取り組み

⑤人工林と木曽ヒノキ備林の林相を比較して見学したい。



人工林と木曽ヒノキ備林との林相を比較できるように、案内行程を見直し工夫する。



おわりに

備林は、レクリエーションの森ではありませんが、森林や木材に関心を持つ研究者や建築・林産物関係の方、木造建築物の歴史・文化に関心のある方など、様々な方が訪問されています。

今後はこれらの取り組みを順次進めていくとともに、さらに訪問者の関心事や要望、動向を把握し、より充実した案内にしていきたいと考えています。